

～ コミュニティ・スクール だより No.17 ～

氷川町小中学校コミュニティ・スクール連携協議会事務局

令和7年度もコミュニティ・スクールの取組、力を合わせ頑張りました！



2月26日(木)5校のCS委員が集い、第2回小中学校学校運営協議会合同会議を行い、1年間の取組を振り返りました。CS活動を通して、「地域に愛情を持ち、地域で活躍できる子どもたち」の育成を願っておりますが、そのような思いを抱き、地域の人、CS委員に伝えてくれた竜北中学校3年の中村悠聖さんの発表内容を紹介します。CS委員も彼の発表に感激し、更に意欲を燃やす姿が見られました。

*本文は、第47回「少年の主張」熊本県大会で八代地区代表として発表されたものです。

「ふるさと氷川への思い」

氷川町立竜北中学校 3年 中村 悠聖

「自分のふるさと、ひかわの魅力って何だろう」これまで、僕は深く考えたことがありませんでした。氷川の清らかな流れ、立神峡の美しい自然も、幼い頃から目にしてきた当たり前の景色でした。また、氷川町特産の梨やイチゴも、季節になれば出回る物として、特に考えずにおいしく食べてきました。

そんな僕が、ふるさとの魅力について考えるきっかけになった行事があります。

皆さんは、「CSの日」を知っていますか。まず、CSとは、コミュニティ・スクールのことで、地域と学校が力をあわせて学校や地域の願いを実現するために活動することです。僕の地域では「CSの日」という行事があるわけですが、それは、中学生と小学生の交流会で、毎年恒例となっています。その日は、ふるさとの魅力について、中学生が小学生に授業をして、伝えるのです。たった1時間の授業をするだけですが、これに向けての準備がとても大変でした。

1学期から、班ごとに「何をどんなふうに教えようか」「小学生にわかりやすくするにはどうしたらいいだろう」と、テーマや授業内容について話し合いを重ね、準備をします。

ふるさとの魅力となる「氷川の宝」として、自然、特産物、氷川町出身の人物、歴史などを小学1年生から6年生まで、学年に応じた内容で授業を行います。

僕の班は、氷川町の特産物、吉野梨について5年生に授業をしました。

まず、小学生に教えるためには、吉野梨について僕らがよく知らなければなりません。そこで、夏休みに梨農家に取材に行って吉野梨の生産方法や品種について教えてもらいました。梨にもたくさんの種類があることや枝の整え方で梨の味が変わることなどこのとき初めて知りました。特産物の梨は農家の方が大切に育ててきたものなのです。

次に、一緒に授業を作っていくためにCS委員さんたちと積極的にコミュニケーションをとるようにしました。CS委員さんは僕たちのサポートをしてくださっているのであって、自分たちが自主的に動かなければこの活動が進まないと思い、たくさんの考えを出して意見をききました。CS委員さんという強い味方のおかげで、授業の構成や内容をより深くしていくことができました。

さらに、リハーサルで会ったときには、小学生は僕ら以上に集中できる時間が短いと思いました。僕たちが学んだことをそのまま全てスライドにしてしまうと、「難しいな」と感じて、飽きてしまうかもしれません。ただ座って話を聞くだけでは小学生が集中できずに楽しめないと思い、〇×クイズ形式の授業を考えました。動画を入れたり役割演技で役になりきったりして小学生の興味を高める工夫をしました。すると、小学生もノリノリで答えてくれて、僕たちも楽しんで授業をすることができました。

この活動を通して、僕のふるさとには自然、歴史、人物、特産物…など、たくさんの宝があることを知りました。どれも、ふるさとの人々が築き上げ、長い間ずっと苦勞して守り続けてきたものなのです。

自分の家族も、氷川町の宝であるイチゴを育てています。「CSの日」を経験するまでは正直、「宝」という意識まではありませんでした。けれども、「CSの日」を経験して、自分の家族が、氷川町にとって大切な魅力を育て続けていることを知って、誇らしい気持ちになりました。祖父母が早朝から夜までイチゴの作業をするのを見るときに、尊敬の思いが出てきました。

中学校を卒業すると、ふるさとを離れる人も出てきます。でも、その時を前に、ふるさとの魅力を知ることができたことは、これからの僕たちの心の支えであり、自分のふるさとにはこんなに素晴らしいものがあるという誇りになります。たとえ離れたとしても、いつでも帰ってこられるふるさと氷川は、これからもずっと僕らの心にあって、魅力いっぱいあたたかい場所なのです。

氷川町のシンボルの鳥は「ツバメ」です。渡り鳥であるツバメは、生まれたところから遠くシベリアあたりまで旅をして、再び子育てのために日本にやってきます。僕も一度自分の目で広い世界を見て、さまざまな経験をし、再び氷川町に戻って、ふるさとの宝を守り、発展させていく担い手になりたいと思います。



「氷川町コミュニティ・スクール」への熱い思いを語る村山CS委員



合同会議の中で5校のCS委員が意見交換(熟議)をする様子

村山賢一CS委員からは、永年関わってきた氷川町のコミュニティ・スクール活動について、皆さんに熱い思いを語られました。現在関わっている児童生徒の5年・10年後の未来を見据え、もっともっとコミュニティ・スクールについて地域の方に知っていただき、今後、さらに地域の方とともに取り組んでいくこと。そして、コミュニティ・スクールを核とした氷川町まちづくりへとつなげていきたいと力を込めて話されました。次年度、こどもたちを真ん中により多くの方々とつながり、一緒に学校や地域の願いの実現に取り組んでいきたいと思っています。